



令和8年度(2026年度) ▶▶▶ 令和12年度(2030年度)

概要版

しもやまスマイルプラン

《後期プラン》

しもやまスマイルプランって何？

この「しもやまスマイルプラン」は、私たちが住む下山を子どもたちの世代に引き継ぐために、将来の下山について考え、描いた未来の姿を実現するための行動計画です。



下山の5年後の将来像



子どもの声が聞こえ、
笑顔で暮らせるまち しもやま



みんなでめざす下山のまちづくりの方向性

下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」の減少を抑える取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。

住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による地域活動を次世代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもから高齢者まで、誰もが安心して生活できる環境をつくります。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境をつくります。

分野別プラン

「分野別プラン」では、定住・移住、子育て・教育、健康・福祉など以下の11の分野について、下山全体で取り組むべき施策と具体的な事業を定めています。

主に下山地域まちづくり推進協議会の構成団体（里楽暮らしもやま会、下山商工会、各自治区など）や豊田市下山支所などが中心となって、下山全域の課題解決に貢献する柱となる施策を推進します。



後期プランでは、以下の4つの項目について、重点的に取り組んでいきます。

項目	後期プランで取り組む方向性
定住・移住	「住みよさ」と「定住意識」の向上 生活利便性の向上と定住・移住施策の充実により、特に若年層・子育て世代の住みよさの向上を図ります。
観光	次世代が地域に誇りをもてる観光まちづくり 体験プログラムの開発や環境整備による地域資源の磨き上げや、戦略的な情報発信を関係者が主体的に取り組むことで観光まちづくりを推進します。
農地保全	省力的な管理手法の導入と新たな担い手の確保 耕作放棄地の解消に向け、地域外人材も含めた担い手の育成や、粗放的な農地管理（手のかからない管理）を推進します。
基盤整備	生活道路の計画的整備と安全対策の推進 住民生活に直結する道路の整備・補修を着実に進めるとともに、交通量変化に対応した安全対策を行います。

しもやまスマイルプラン《後期プラン》（概要版） 令和8年3月

発行：下山地域まちづくり推進協議会（事務局 豊田市役所地域活躍部下山支所）
TEL 0565-90-2111 メール shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp

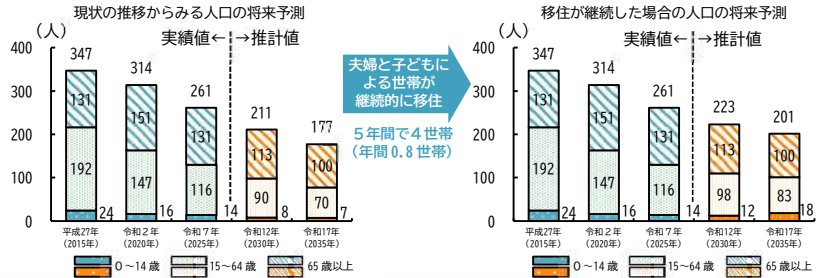


※本編は豊田市ホームページからご覧ください。

田平沢自治区の人口データ

- 田平沢自治区には、124 世帯、261 人の方が住んでいます(豊田市住民基本台帳、令和7年10月1日現在)。
- 令和12年には211人と、今後5年間でさらなる減少が予想されていますが、継続的に若い世代が移住すると、人口構成の回復が期待できます。

田平沢自治区の人口の推移と推計



田平沢自治区の5年後の将来像

- ひとり暮らしの世帯は増えていますが、つながりづくりの活性化で孤独になる人はいません。
- 自治区内では、誰もが楽しめるイベントが定期的に行われ、みんなが生き生きと活動しています。
- 進学・就職・結婚などで外に出ていった人も、お盆の帰省時には地域みんなで集まり、地域とのつながりが維持されています。
- 地域の環境整備を通して、田平沢自治区の景観を美しく保ち、訪れる人にも田平沢の豊かな自然と美しい景観でもてなします。
- 地域の若い世代が自治区活動に参加しており、自立した自治区運営が継続されています。
- 自治区や組の運営、行事やお祭りは、少しずつ形を変えながら、次の世代に引き継がれ、存続しています。



田平沢自治区の今後5年間の取組

重点取組

取組1：自治区運営を次世代に引き継ぐためのあり方検討

自治区や組の運営、行事や祭りの担い手の高齢化が進み、人口減少や若手の参加減少により、将来的な担い手不足が懸念されています。このため、組の合併や役職体制の見直しなどの検討を進め、持続可能な自治区運営のあり方をめざしていきます。

また、ICTの活用を図り、電子回覧や連絡業務、情報共有等のデジタル化を進めることで、役員及び住民の負担軽減を図っていきます。

重点取組

取組2：住民同士のつながりづくり

地域の人が気軽に集まっておしゃべりをする機会が少なくなり、近所同士のつながりが希薄になっています。このため、自治区内の自主活動グループの継続支援を通じて、住民同士の交流を促進します。

また、見守りアプリの活用や地域の見守り体制の整備を進め、日常的な安否確認や緊急時の迅速な対応ができる仕組みを検討し、高齢者が安心して暮らせる地域づくりを進めます。

取組3：田平沢転出者との関係づくり

自治区が開催するお祭りには、転出した子どもや孫が多く参加し、地域とのつながりを保つ貴重な機会となっています。今後は、こうしたつながりをさらに深めるため、転出した若い世代や孫世代が企画や運営にも参画し、世代交代を進めながらお祭りの継続に取り組みます。

取組4：地域活動による定住・移住の促進及び景観の維持

高齢化により、田畑を管理することが困難になり耕作放棄地や空き家が増えることが懸念されます。住民一人ひとりが財産管理に対する意識を高め、活用可能な物件については空き家情報バンク制度などを活用して移住促進を図り、将来的な荒地化や空き家化を未然に防ぎます。

また、もみじ街道や巴川沿いの環境整備を住民が協力して継続的に進めるとともに、もみじやハナモモなどの、手間のかからない粗放的管理による景観づくりにも取り組みます。

	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
1：自治区運営を次世代に引き継ぐためのあり方検討					
自治区・組のあり方についての意見交換		組合併に関する方針決定		方針に沿った取組を実施	
自治区運営にアプリを活用		アプリ活用による自治区運営の負担軽減			
2：住民同士のつながりづくり					
「おっさんズクラブ」「築母会」の活動を続ける					
見守りアプリの活用、地域における見守り体制づくりの検討					
3：田平沢転出者との関係づくり					
田平沢とつながる人に広く呼びかけて、お祭りを開催する(大きなイベントにするより、続けることを大切にする)					
4：地域活動による定住・移住の促進及び景観の維持					
空き家・空き地の発掘活動					
主要道路沿いの定期的な景観整備、もみじやハナモモなど粗放的管理による景観整備					